

目も持っています。やはり、はじめは先生方から「何をしてくれる人なのか、よくわからない」といった部分が多々あります。そのため、上記のような活動へ円滑に持っていくためには、自分たちがどんなことをするのか、出来るのか、少しずつ周囲の方に知って頂かなくてはならないのです。

●SSWとしてのやりがい

最初、相談員としての経験は皆無であり、不安でいっぱいでした。まだ誰も歩いていない道を自分や同僚と切り開いていかなければならないのです。他の2名は経験もあり、知識や人生経験の面でも秀でています。そうした中で、SSWとして自分が出来ることは何だろうかと悩み、手探りで対応を考えていく日々でした。

今年度の4月から、SSWとして活動をしてきて、どうするのが良いのかわからなくなることも、たくさんありました。行政や学校という今まで自分がいた環境とは全く違う場所、一人職場の中で対応を迫られるケース、頭を抱えたことも片手では数えきれません。それでもやってこられたのは、同僚や現場の先生方、各関係機関の担当者の方の協力も大きいです。また、関わりの中で、不登校の子が登校出来たり、無表情だった子が笑ってくれたり、「ありがとう」と言ってくれるその瞬間があったからです。

学校に通っている子どもたちにとって、世界は思うほど広くありません。困っていても、助けを学校や家庭以外のどこに求めればいいのか、分からないこともあります。また、現場の先生方も、授業以外の部分で多忙を極めており、すべての子どもたちに深くかかわることが難しくなっている状況があります。そうした中で、SSWとして、子どもたちに必要な支援を一緒に探し考えていくことに、この仕事のやりがいと必要性を感じています。

●これからの自分に

今、SSWとして活動している自分ですが、今後はまた違った環境で働いてみたいと思う気持ちもあります。理由の一つとして、SSWの立場を自分で確立しなければならない現状があるからです。雇用・待遇面で不安定さがあるのは、新しい事業のため、仕方のない部分もあると思います。もちろん、「福祉だから低賃金・高負担でいい」とは思いません。支援する側にゆとりがなければ、決して良い支援など出来ないからです。ですが、新事業のために学校や地域で十分理解されていない状況ではなかなか必要性を訴えることは難しいのも事実です。そのため、SSWは成果によって、現場の理解と必要性を結果で示していくことが求められますが、自分はまだまだ



未熟です。特に、現状では1年雇用のため、短期間で成果を上げていかなければなりません。そのため、今の力量のまま続けていくことに、疑問を感じています。

また、福祉の現場では、10年20年同じ職

場で働くことは少ないと聞きます。なぜなら、一つの環境に留まることで、支援の方法や考え方が凝り固まってしまうからです。まだ自分自身、確固とした支援技術や理念を持っているとは言い難いですが、だからこそ、色々な世界や現場を見てみたいとも思うのです。様々な場所での経験が、きっと自分自身の力に変わっていくと思います。

自分の好きな言葉に「明日の私は新しい私」というものがあります。きっとこれからも、たくさん悩んだり、喜びがあったりすると思います。そうした中で、自分自身が一日一日成長して、新しい自分になれるように、自分の選んだ福祉の道と向き合っていきたいです。